

李登輝氏欠席へ圧力

フォーラム世話人「手段選ばぬ工作」 中嶋氏が示唆

外務省否定

台湾前総統の李登輝氏の訪日問題をめぐり、長野県松本市で開かれていた日台識者の国際会議「アジア・オープン・フォーラム」世話人の中嶋嶺雄・東京外語大学学長は三十一日の閉幕式で、李登輝氏が同会議に出席を望みながら日本へのビザ（入国査証）申請を行

わなかつた背景に「日台外交当局による工作」の存在を示唆する発言をした。李登輝氏の訪日について中国政府は李氏が総統職を退いたいまも「純粹な私人ではない」として強く反対しているが、中嶋氏はさる十月十八日に記者会見し、李登輝氏は同月二十三日に

訪日のビザ申請をするといつたのは発表した。しかし、日本における台湾の外交窓口「台北駐日経済文化代表処」は李登輝氏の意向として「ビザ申請しない」と否定、このとんでん返しの真相は不明だった。この経緯を説明するなかで中嶋氏は、「日本政府首

脳と直接あるいは間接に連絡し、ビザ申請があれば真剣に対処せざるを得ない」という、従来の『空気』とは大きく異なる感触も得ていた」とし、ビザ申請の発表は李登輝氏も了解したうえで行ったという。しかし、こうした中嶋氏が受け止めた政府首脳『感触』を知らない「日台双方の外交機関、代表機関」などによって「手段を選ばぬ工作が行われた模様だ」と述べた。アジア・オープン・フォーラムに参加した李登輝氏

に近い関係者も、「チェコ駐在の日本大使館外交官が、（当時チェコを訪問中だった）李登輝氏側に接触し、日本政府は非常に苦しい立場に立たされるとして、ビザ申請しないよう強く働きかけた」と指摘し、日本政府をそこまで追い詰めるのは本意ではないとして李登輝氏はビザ申請を断念したと指摘している。しかし、「フォーラム」に出席した別の李登輝氏側近筋は、「中嶋氏の言う『日本政府の感触』とは、

フォーラムへの出席の件ではなく、年内もしくは来年の早い段階であればという意味だった」と述べ、中嶋氏と李登輝氏の側近側との間で、食い違いがあったことも明らかにした。中嶋氏から暗に批判された台北駐日代表処の羅福全代表も「フォーラム」に参加していたが、「李登輝氏に訪日してもらうことは重要任務」と強調したうえで、「今回は自分が泥をかぶる。反論しない」と語り、「すべての道はローマ

に通じる」として李登輝氏の早期訪日実現に強い期待を表明した。（野口東秀）
◇
李登輝氏の訪日問題をめぐり、日台の外交当局が圧力をかけたとされることについて、外務省の横井裕中国課長は三十一日、産経新聞に対し、「そのような事実はない」と否定した。また、在チェコの日本大使館外交官が李登輝氏側に接触し、働きかけたとの指摘についても「心当たりは一切ない」と述べた。